

# すみれ組（4歳児）

今年度の4歳児クラスは、自分達が住む日本の素晴らしさを感じてもらいたいという思いから、日本の食べ物や祭り、家屋、遊びなどに関して年間を通して興味を持てるようにしてきました。

各地の食べ物から始め、最初は関心を寄せなかった子ども達でしたが、保育者が給食の時にその日のメニューに使われる野菜や果物などの産地を伝えていくと、自分達が食べている物が日本のどこで採れたものなのかについて少しずつ興味を示し始めました。次第に「石川県でもお茶がとれるんだよ」などと、家庭で調べたことや聞いたことを話す子も見られるようになりました。また「北海道では雪がたくさん降るんだよ」など、食べ物以外にも自分が知ったことを保育者や友達に知らせる子もいました。

遊びの面では、めんこや竹とんぼ、“おせんべ焼けたかな？”などの伝承遊びを遊ぶ機会を作ってきました。特にめんこは折り紙で作って遊び、なかなかひっくり返せないしていると「2枚重ねたら、もっと強くなるんじゃない？」と一言。子ども達が遊びを通して考え、発見したり、工夫したりする経験もできました。12月頃から、あやとりに興味を持つ子も増えてきて「5段梯子を作れるようになったよ」「お兄ちゃんからほうきの作り方を教えてもらった」と言って友達に見せて教え合ったり、より難しいものに挑戦したりするなど、互いに刺激を受け合う姿も見られるようになってきました。

2月に行った発表会ごっこでは、自分達が今まで興味を持った歌や遊び、食べ物などをグループごとに分かれて発表しました。練習するにあたって保育者が心掛けたことは、子ども達が主体的に活動することです。子ども達同士で、どのように発表していくか意見を出し合いながら進めていくようにすることで、最初はなかなか意見を出さなかった子も練習を通してアイデアを出すようになったり、自分達で必要な物を準備したりするなど、意欲的に練習に参加する姿が見られるようになりました。今後も自分達が住む日本の良さを感じながら、昔の人達が大切にしてきた伝統文化を大切にしていって欲しいなと感じます。

## 食べ物



日本では美味しい食べ物  
がたくさんとれるんだ

## 祭り



青森県の  
ねぶた祭りを  
紹介しました

## 家屋



遠足先で本物の藁の家を  
見て子ども達は感動！



## 遊び



技にも挑戦中



5段梯子はこうやって  
作るんだよ！



めんこや凧、竹トンボは自分達で  
作ったよ！



お正月には羽子板も  
したよ！





# ひまわり組（5歳児）



今年度は一人で考えて活動を進めるだけでなく、友だちと話し合い、折り合いをつけながら一つのことを成し遂げる経験をたくさん取り入れてきました。4歳児の時に比べると「友達を思いやる心」が育ったように感じています。例えば、運動会で縄跳びを取り入れました。行事で披露するという目標ができたことで皆、頑張って練習をしていました。それでも上手く跳べない子は跳べる子を見て悔しそうだったり、諦めるような言葉も聞かれていました。そんな時、保育者ではなく、友だちが声を掛けて跳び方を教える姿が！跳べるようになると「すごい！跳べたね。先生 A 君が跳べたよ」と自分のことのように嬉しそうに話していました。そして、1月のある日、「自分が大きくなったところ」を一人ずつ発表した時に、その A 君は、「苦手だった縄跳びが跳べるようになったこと」を挙げていました。そして「B 君が跳び方を教えてくれたから僕が跳べるようになったんだよ」と話していました。この時私は、年間の目標である“人（仲間）との繋がり”が深まったことを感じ、嬉しく思いました。

後半は就学に向けての活動も増やしています。子ども達は小学生になることを楽しみに待つ声が聞かれる反面、ソワソワ落ち着かない姿も保育者は気になっていました。子ども達には“一人じゃないんだよ”ということ伝えていきます。ご両親、家族の皆さんと共に神様がいつも側で見守って下さっています。

様々な経験を通して、失敗も、考えることもたくさんしてきた子ども達は、諦めない気持ちと仲間を頼ることを知りました。学んだことを忘れず、“ぼく、わたしなら大丈夫”の気持ちを持って小学生になって欲しいと願っています。



春…何を栽培するか図鑑を見ながら、友だちと相談しました。



「飛ばされる～」と笑いあいながら、友だちと風を感じました。



4月から…昨年度の年長から引き継ぎ3、4歳児の布回敷のお手伝い。友だちと声を掛けながら向きや違うところを伝え合って進めています。



友だちと一緒に心も体も大きく成長したよ！！



秋…みんなで大縄に挑戦！「今だ！」「頑張れー」と友達に声を掛けていました。



夏…プールに浮かせる船や段ボールで作ったスイカ（割り）を友だちと一緒に作り、遊びました。「楽しかったね～」



冬…クラス全員でルールを守りながら遊ぶことを楽しみました。友だちと一緒にやっぱり楽しいよね！



# 混合保育

## 乳児組（0、1、2歳児）

昨年度に引き続き新型コロナウイルスによる感染症予防のため、今までの愛らしい混合保育（\*1）を取り組むことはできませんでした。しかし各クラスで過ごしながらも、散歩前のテラスで出会う時・朝夕の時間・散歩先などで、幼児とだけでなく、乳児同士と一緒に過ごすことのできる機会を大切にしました。また、保育者が仲立ちとなりながら関わることで異年齢児からの刺激を受け、育ち合う機会を持てるようにしてきました。



すると乳児間の関わりから小さい子たちならではの相手を思いやる心が育まれ、1歳児が0歳児に『いないいないばあ』をしたり、2歳児が0歳児に靴を履かせてあげようとする優しい姿が見られるようになりました。今までの混合保育の中で年上の子から優しくしてもらった経験から育まれた姿のようにも感じられました。

今後もその年の環境や子ども達の姿に合った関わりを考えながら、愛らしい混合保育を行っていきたいと思います。



## 幼児組（3、4、5歳児）

混合で活動する案を各クラスの担任同士出し合って決めています。今年度は3歳児と4、5歳児との交流を夏の遊びから始めました。縦割りで3歳児と5歳児の2グループに分かれて水遊びをする機会を設けることで5歳児が着替えの手伝いをすると、少しずつ3歳児も自分でしようとする気持ちに繋がりました。遊びの中でも、水鉄砲ができなかった子が教えてもらってできるようになるなど、たくさんの刺激を受けました。

また、4歳児も指先の発達に伴い自分の身の回りのことが早くできるようになった秋頃、5歳児が行っていることを見て3歳児の着替えや布団を敷く時のシートを畳むなどを手伝うようになり、「次は何する？」と保育者に積極的に聞いて行うようになるまで成長をしました。

クリスマスに向けてアドベント礼拝や聖劇練習を通して3クラスと一緒に過ごすことが増え、1月頃には3歳児の朝の会の座る姿勢、お辞儀の仕方も変わってきました。年上児から【見て学ぶ】大切さを感じています。

乳児組との交流は、昨年度はコロナが流行り始めたため消極的になっていましたが、1年間の経験を活かし、こいのぼりのモビールを0歳児クラスにプレゼントしたり、紙コップで作った風車を園内の各保育室にプレゼントし、風を感じられるようにするなど、子ども達の手作りしたもので交流をしてきました。また、夏には幼児で行った夏祭りごっこの中のポーリング屋さんを【出張ポーリング屋さん】と称し、年長児が乳児組の各クラスを回ったり、段ボールでスイカを作り、スイカ割が室内でも楽しめるように2歳児にプレゼントしました。今できる混合保育を実践していますが、コロナが落ち着き、もっと柔軟に各クラスとの交流がもてると、愛らしい混合保育ができるのではと考え、その日が来ることを楽しみにしています。



\*1. 愛らしい混合保育とは…例えば、0・1歳児は4月と3月生まれでは成長発達が大きく違うため、歩行の安定しない1歳児が0歳児クラスで暫く過ごし、歩行の安定を図ったり、「0歳児だから2歳児、幼児とは（成長発達が違い過ぎるから）過ごせない」ではなく、年上児のしていることに興味を持っているのであれば、クラスを分け隔てるのではなく、保育者が環境の安全を確認した上で判断をし、子どもの主体性を大事にした保育をすること。



## 給食 「疫病禍の中、子どもたちと共に」



—昨年度から蔓延した新型コロナの疫病は勢いを潜めたり、増したりを繰り返しながら留まるところを知りません。「まん延防止等重点措置」の発令・緊急事態宣言を繰り返していくうちに当初の緊張は正直薄れ、マスクをしていればほぼ安心という油断が始まったころ、形を変えたオミクロン株は非常に感染力が強く幼児にも感染する率が高いという事態になりました。愛星保育園の関係者でも罹患者、濃厚接触者となられた方がおられ、病がひたひたと近づいてきているのを実感しています。給食室では昼食も時差、別室、同室でも距離をとっていただくようして、感染者が出た時に全員が濃厚接触者になり給食を出すことができないリスクを下げるよう努めています。

0歳児クラスの離乳食のスタートは、当然ですが各人各様。月齢通りの食事のお子さん、既食の食材でも料理法が変わっていると口にしようとしなないお子さん、月齢以上の料理でも友達の食事をみて食べたい意欲を示すお子さん、と個性を示しながら、月齢通りに後期・完了食となりました。1歳児の新入園児は場所見知りもあり、決まったものしか食べない傾向がありました。徐々に食べられる食品、料理を増やしていき、子どもの順応力の高さは毎年ながら感心させられます。2歳児の緑黄色野菜嫌いも徐々に食べる量が増えていっています。

幼児組は、「日本の文化、伝統を伝える」一環として、保育現場とタイアップして各県の郷土料理、特産物を供し伝えていきました。その地方の気候、地形などで収穫できるもの調理法なども違うことを実際に食べて知り、興味を持ってくれる機会になればと思い実施いたしましたが、ご家庭の協力もあり好評でした。調理保育は各クラスごと、マスク着用で取り組み、作成者が特定できるようにして、それを食べるようにしました。衛生面により配慮することを身に付ける場になったのではと思っています。

お楽しみ献立は盛り付けを目で見て楽しむ機会にはなりましたが、時間がかかるため、どうしてもご飯ものなどは乾いてしまう結果となりました。

シークレットメニューは、保護者の皆様からもご意見をいただくなかで、11月には応募者24名と今までの最高記録でした。様々な形で給食を支え続けてくださったことに心から感謝いたします。

栄養士 湯本 英子



## 保健 「健やかな成長を祈って」



マスク・手洗い・換気・ソーシャルディスタンスが日常化してはや2年。感染症対策に全世界が注目し皆が行うようになり、保健担当者としては良い面もあったのではなかと考えています。現に昨年度は感染症がほとんど発生せず、保育園が守られている感じがありました。今年度は当園でもRSウイルス感染症やヘルパンギーナが流行しいくつか感染症発生にヒヤヒヤしましたが、例年よりは少なく済みました。予防接種の種類が増え、接種率が高いことも一因にあり、保護者の方々のご理解ご協力に感謝しております。

「リモート」保育は難しくても研修や会議では恩恵に与り、特に新型コロナウイルス感染症関係では情報の更新と振り返りが必要で、全国規模での研修もあり勉強になりました。港区の保健担当者会議はzoomを活用することで情報交換や共有を行うことが出来、他園のリアルな状況が分かり参考になります。各園ほぼ一人ずつの看護師配置ですが、お互い協力し合い保育保健の向上に努めています。

人は睡眠をとらずに生きることは出来ず人生の1/3を眠って過ごすにもかかわらず、現代の日本人はこのことを軽視しているようで、睡眠時間は世界ワースト1位。睡眠は量と質が大切ですが手足を動かすように睡眠の深さをコントロールすることが出来ません。

しかし、就寝時間を早くし一定の時間に起きる、朝日を浴び外で体を動かし食生活を整えるなど、間接的な方法があります。子ども達は教えられることよりも日々周りの環境から学び、幼い時の生活習慣から将来の身体が作られていくので、私達大人が手本になりたいと思います。

幼い時に興味の幅を広げる事や生活に密着した知恵は必要で、何より私の面白い！心動かされることを共有してほしいとの思いの元、幼児組の子どもたちに「保健のお話」として健康教育を月に一度、ひまわり組に「生命と体のお話」として生まれてくるまでの胎児の成長のお話と体の仕組みについての本の読みかせを今年もしてきました。なぜ「早寝早起き朝ごはん朝うんち」が必要なのか？出来たらどうなるのか？自分の話もしたい子ども達と会話をしながら、わかりやすく実行できるように紙芝居のような絵を見せながら伝えています。また、「からだとなかよしシート」としてお話した内容に関連した確認用紙を配布し、記入して持って来てくれるのを待っています。子どもは大好きな人の応援で、やる気スイッチが入ったりするので、保護者の方にも内容が伝わるように毎月掲示をしています。今も将来も健康に過ごせるように、皆で良い習慣を身に付けていきましょう。及ばずながら努力していきますので、ご協力宜しくお願いいたします。

看護師 宇山 真紀子